# 介護老人保健施設しおん

**症　例　概　要**　ご利用者　：男性　要介護5

利用期間　：2022年7月～現在

現病：、高アンモニア血症、肝性脳症、ウェルニッケ脳症、偽膜性腸炎、コルサコフ症候群、深部静脈血栓症、高ナトリウム血症

既往：　間質性肺炎、虫垂炎術後、頸椎症性脊髄症

経過　：2022年3月に発熱、食欲低下、意識低下あり他院へ入院。抗生剤点滴やビタミンン点滴による治療を行われ症状軽快。意識状態の改善見られたが嚥下障害あり、経口摂取不可のため同年6月に胃瘻造設行い、経管栄養の投与が開始となる。ADL改善がないとご自宅への帰宅は困難のためリハビリ継続目的にてしおんへ入所となる。

## 内　　容

ご本人は入院後胃瘻造設には拒否を示しており、経口が困難なため経鼻胃管挿入していたが、自己抜去をしていた。主治医からご本人・ご家族へ胃瘻造設の説明を繰り返し行われ、納得し胃瘻造設となった。その後しおん入所となり、経管栄養投与を行っていたがご本人からは「食事を摂りたい」「ご飯を食べなきゃ力がでない」といった経口摂取の希望が聞かれるのと、ご家族からも「口からご飯を食べてもらいたい」「たくさんじゃなくても良いから食べてもらいたい」と訴えがあった。そこで看護・STとカンファレンスを開催し経口摂取の試みを開始した。

週に1度、嚥下ゼリーを摂食し嚥下評価を行った。ムセや口腔内へのため込みはなかった。回数を重ねる事に摂取量を増加させ、開始から3ヶ月ほどでプリン1つを摂取できるまでになった。ご本人やご家族からはお腹いっぱいにご飯を食べることが目標であったが、誤嚥のリスクや経管栄養による栄養剤注入も行っていることもあり栄養過多の可能性も考慮し、週に1度ご家族から差し入れられたプリンやヨーグルトを介助のもと摂取することで対応を統一した。

経口摂取を開始してから半年ほどが過ぎ、ご本人の心情にも変化が見られた。経管栄養となってから使っていなかった入れ歯を作りたいとの希望があり、新調することになりました。義歯を装着することで小さく刻まれた果肉入りのゼリーも摂取することができ味のレパートリーが増えると共に、「口元が痩せこけてしまう」と見た目にも気を付ける様になり、「誰が面会に来ても良いように」と日常生活に活力や意欲の向上も見られてきました。また以前は頻回に「食事を摂りたい」と訴えていましたが、現在は訴えることなく前向きに訓練に取り組んでおり、ご家族からは「口から食べる事ができて良かった」とお話ししてくれました。

食事は人間の生理的欲求の一つであり、決して欠けることのない欲求です。ワンチームとなり多様な視点や観点を取り入れた対応を提供することができ、ご利用者さんの思い浮かべる自己実現に向けた関りができた事例ではないかと考える。ご利用者さんが日々輝き、活力に満ちた生活を送ることができるように邁進していきたい。